

～男女がよきパートナーとして共に築くゆとりと活力ある武雄市を目指して～

武雄市ではこれまで「第2次武雄市男女共同参画推進計画（H25 - H29）」を推進してきました。第2次の計画期間が平成29年度で終了することから、平成30年度からの新たな推進計画を策定することとしています。

そこで、計画策定に先立ち、市民の皆様の男女共同参画に関する意識を把握し、男女共同参画社会の実現に向けた施策の充実を図るための基礎資料とするため、平成28年に「市民意識調査」を実施しました。その主なものを紹介します。

<調査の概要>

■市民

1. 調査対象

住民基本台帳より無作為に抽出した武雄市内に住む16歳以上の男女1,000人

（男女割合各50%）

○有効回収数 539人（男性224人、女性310人、その他2人、無回答3人）

※調査結果の集計における「その他」には、「無回答」と回答された方を含む

○有効回収率 53.9%

2. 調査内容

(1)男女平等意識について (2)結婚・家庭生活について (3)教育・子育てについて

(4)仕事について (5)地域活動について (6)健康・福祉について (7)人権について

(8)男女共同参画社会について

3. 調査方法 郵送による配付・回収

4. 調査期間 平成28年8月3日～平成28年8月19日

■中学生

1. 調査対象 武雄市内の中学3年生 449人（平成28年7月1日現在）

○有効回収数 418人 ○有効回収率 93.1%

2. 調査内容

(1)家庭生活について (2)男女平等意識について (3)結婚について (4)仕事について

(5)男女共同参画社会について (6)男女共同参画関連用語の認知度について

3. 調査方法 教員による配布・回収 自記入法

4. 調査期間 平成28年7月7日～平成28年7月20日

■企業

1. 回答企業数： 109（調査対象：197社 回収率55.3%）

※対象事業所：武雄市内の平成26年経済センサス基礎調査において常用雇用者規模20人以上と回答した企業

○官公庁・学校：23（うち回答：16）、民間企業：174（うち回答：93）

2. 調査期間： 平成28年10月～11月

<調査の分析>

上野景三氏（佐賀大学大学院教授）

担当：武雄市男女参画課 電話 0954-23-9141

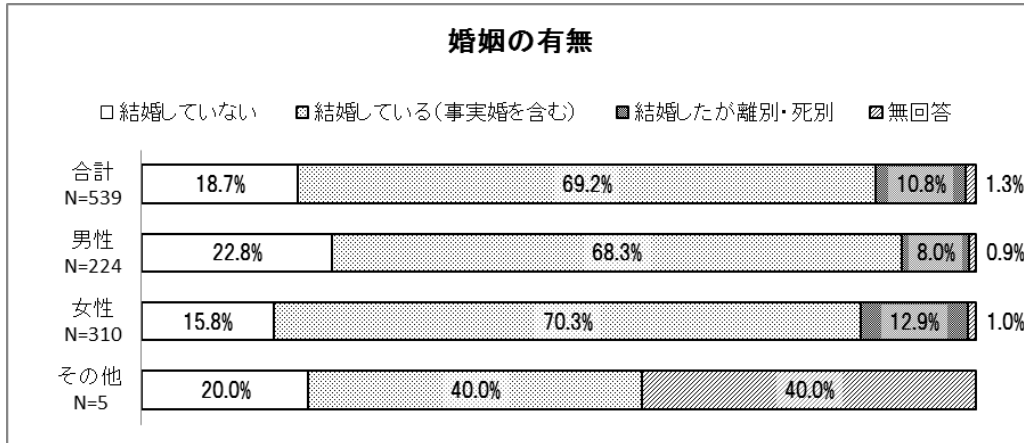
市民

【回答者の属性】

●配偶関係

【全体】「結婚している（事実婚を含む）」が 69.2%、「結婚していない」が 18.7%、「結婚したが離別・死別」10.8%となっている。

平成 28 年度調査

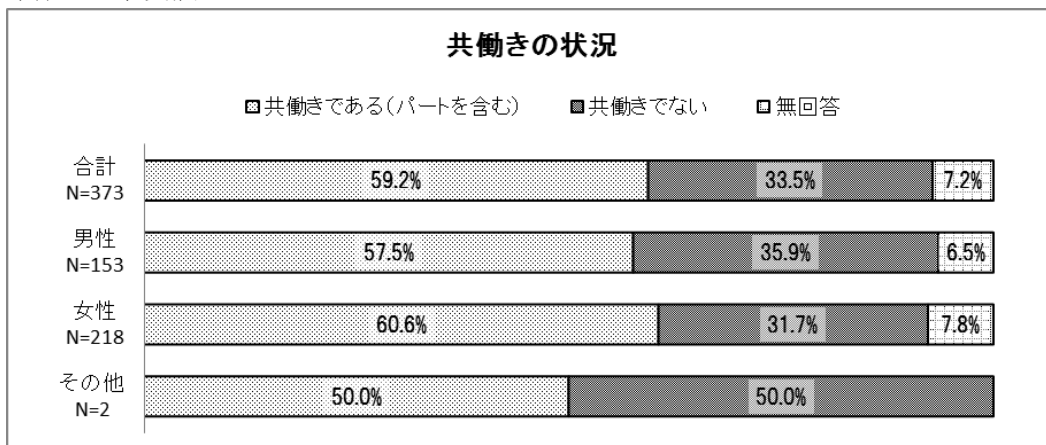


●共働きの状況

【全体】有効回答数の中から配偶者がいると回答した 373 名（69.2%）の内、「共働きである（パートを含む）」は 59.2%、「共働きでない」は 33.5%。
5 人に 3 人が「共働き」である。

【年代別】「20 代」から「50 代」で「共働きである」と回答した率をみると、「20 代」76.9%、「30 代」75.9%、「40 代」86.8%、「50 代」81.6%となっている。

平成 28 年度調査

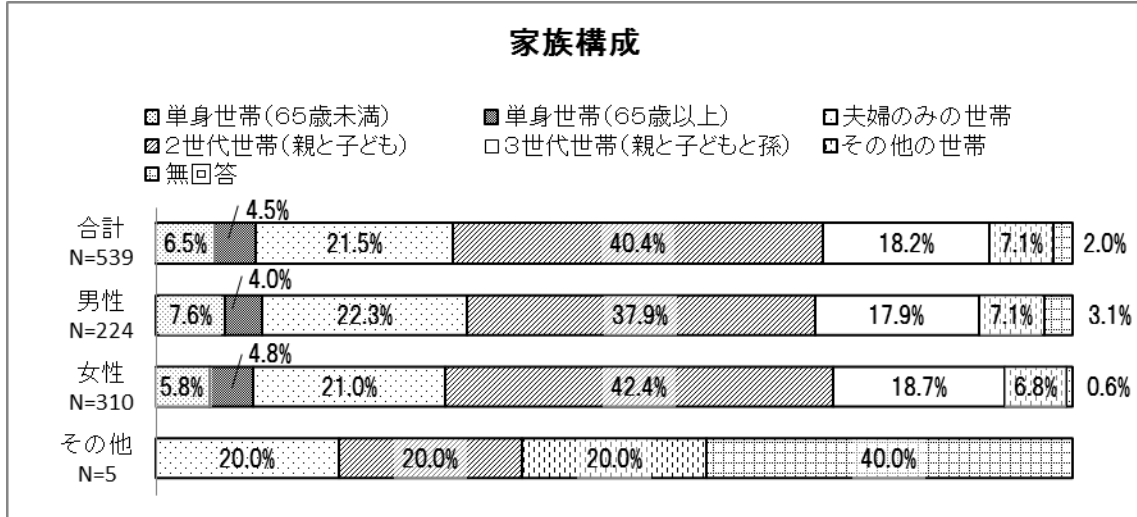


分析：回答者の属性で注目されるのは、「共働き」世帯が 59.2%多いことです。2 世代世帯の割合が 40.4%と高くなっていますが、2 世代世帯には、「老親」と中年の「未婚の子ども」の世帯も含まれていることに留意して下さい。

●家族構成

【全体】「2 世代世帯（親と子ども）」が 40.4%と最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」21.5%、「3 世代世帯（親と子どもと孫）」18.2%、「単身世帯」（65 歳未満・65 歳以上併せて）11.0%となっている。

平成 28 年度調査

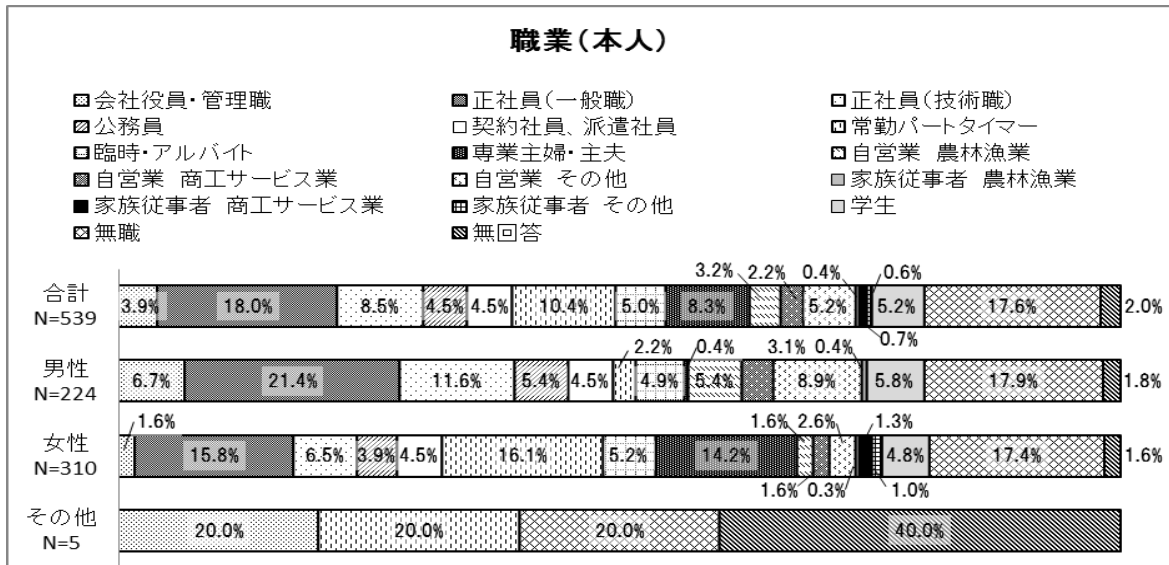


●本人の職業

【全体】会社役員 3.9%、正規職員（「正社員（一般職・技術職）」「公務員」）31.0%、非正規職員（「契約社員・派遣社員」「常勤パート」「臨時アルバイト」）19.9%、「専業主婦・専業主夫」は 8.3%、「自営業（農林・商工・その他）」10.6%、「家族従事者（農林・商工・その他）」1.7%となっている。

【性別】男性の正規職員は 38.4%、非正規職員も 11.6%と 10 人に 1 人を上回る割合である。女性の正規職員は 26.2%と男性を 12.2 ポイント下回り、女性の非正規職員は 25.8%と男性の非正規職員の 2 倍以上となっている。女性の正規職員、非正規職員はそれぞれ女性の 4 人に 1 人という割合である。

平成 28 年度調査



【男女平等意識について】

●男女の地位の平等感について

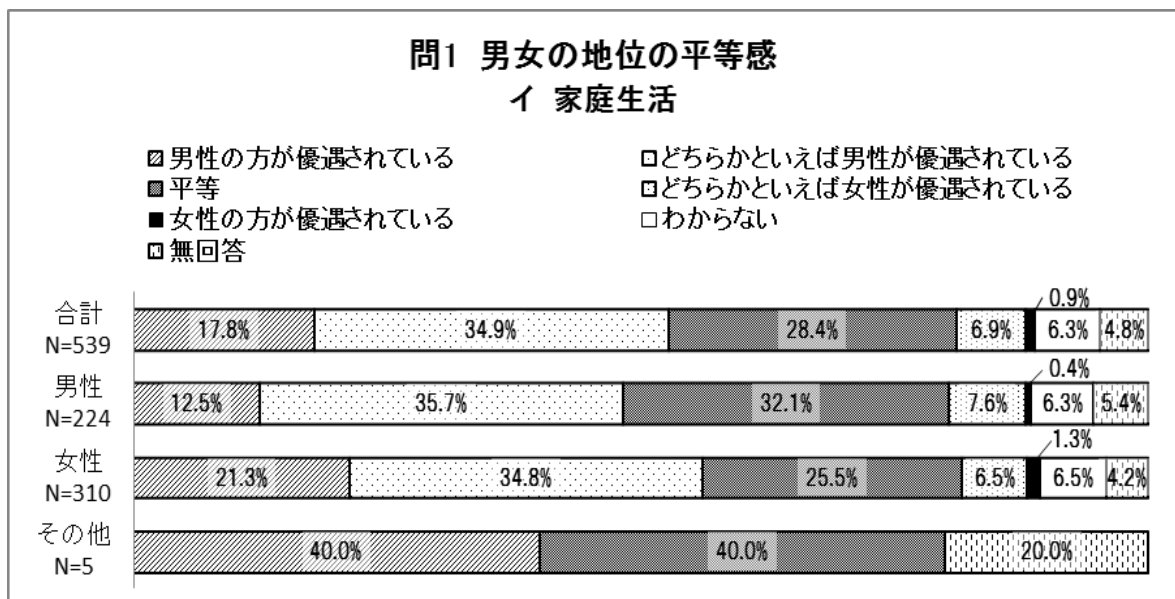
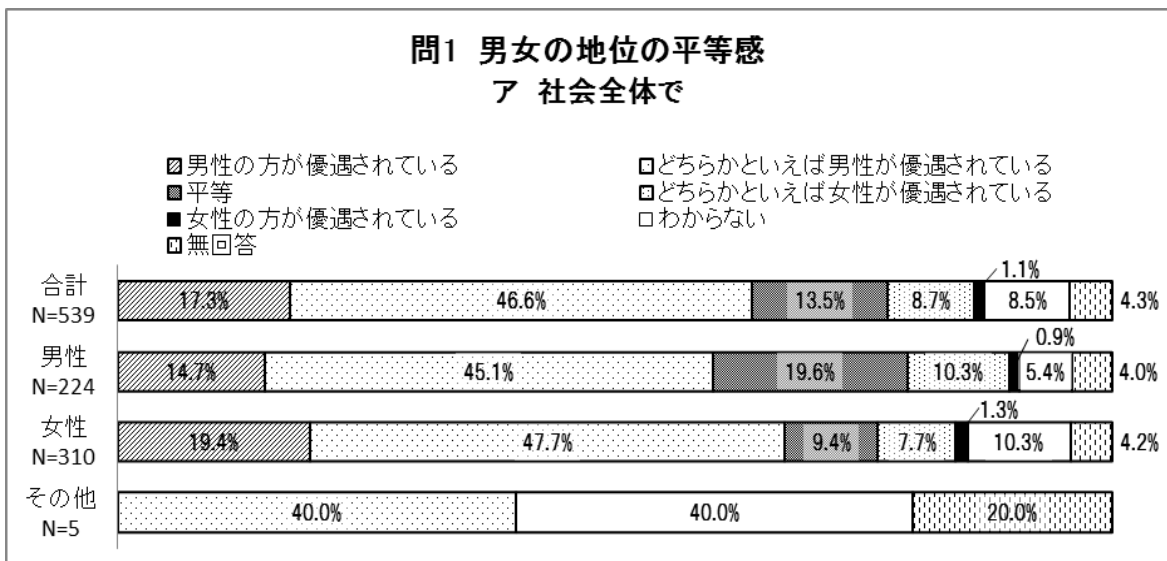
「社会全体」で全体で 63.9%が「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」と回答しており、女性は7割、男性は6割近くにのぼる。

・社会全体と6つの分野で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「平等」と回答した割合が高いほうから、「学校教育の場」で50.3%、「法律・制度の上」で35.6%、「地域・社会活動の場」で28.8%、「家庭生活」で28.4%、「職場」で24.3%、「社会通念・慣習・しきたり」で13.2%となっている。

・「家庭生活」「地域・社会生活の場」「法律・制度」での平等感は男性と女性の感じ方の差が大きい。

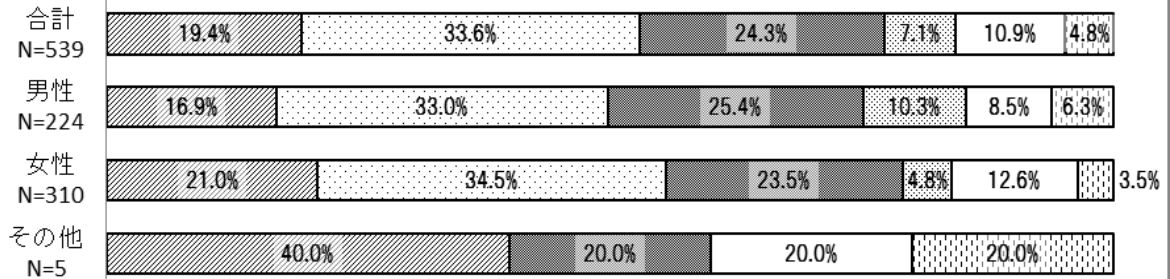
・男女とも「社会通念・慣習・しきたり」での平等感が一番低い結果となり、長い歴史の中で社会的につくられた男女差（不平等感）が根強いことがうかがえる。

平成 28 年度調査



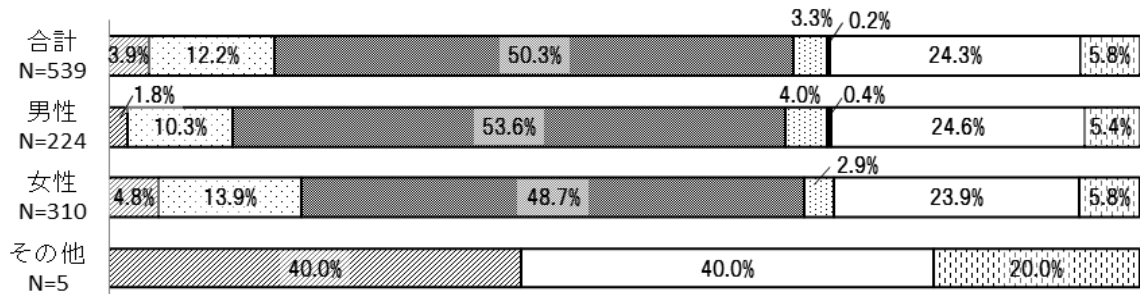
問1 男女の地位の平等感 ウ 職場

- 男性の方が優遇されている
- 平等
- 女性の方が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない



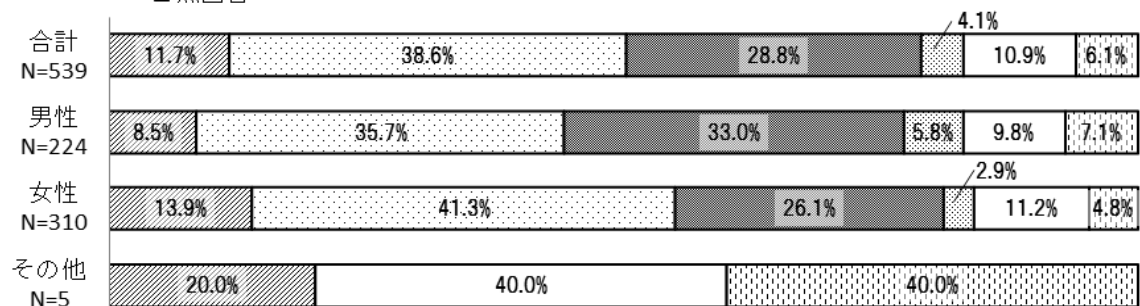
問1 男女の地位の平等感 エ 学校教育の場

- 男性の方が優遇されている
- 平等
- 女性の方が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない



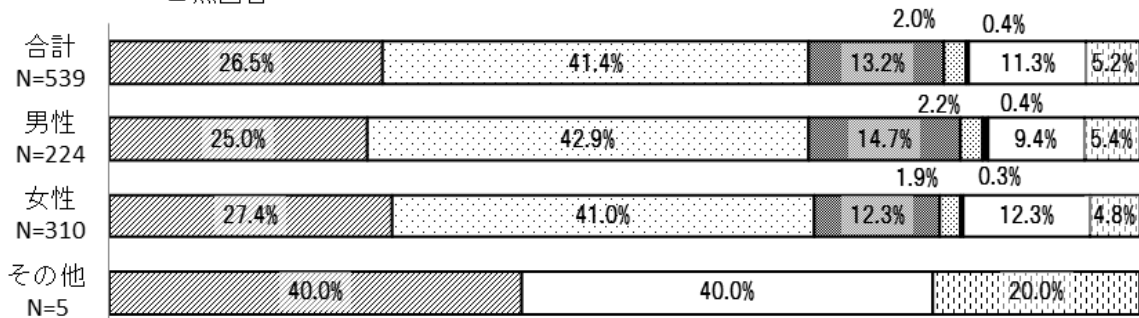
問1 男女の地位の平等感 オ 地域・社会活動の場

- 男性の方が優遇されている
- 平等
- 女性の方が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない



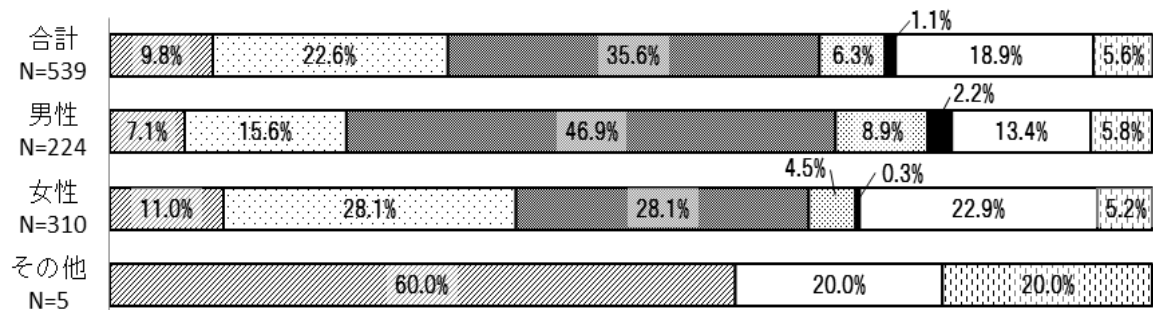
問1 男女の地位の平等感 カ 社会通念・慣習・しきたり

- 男性の方が優遇されている
- 平等
- 女性の方が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない



問1 男女の地位の平等感 キ 法律・制度

- 男性の方が優遇されている
- 平等
- 女性の方が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば男性が優遇されている
- どちらかといえば女性が優遇されている
- わからない

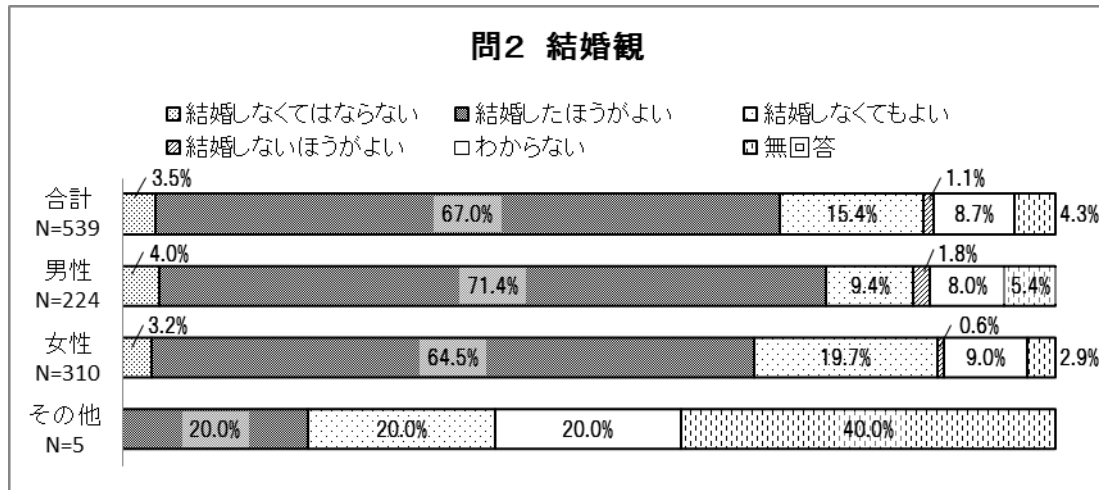


【結婚・家庭生活について】

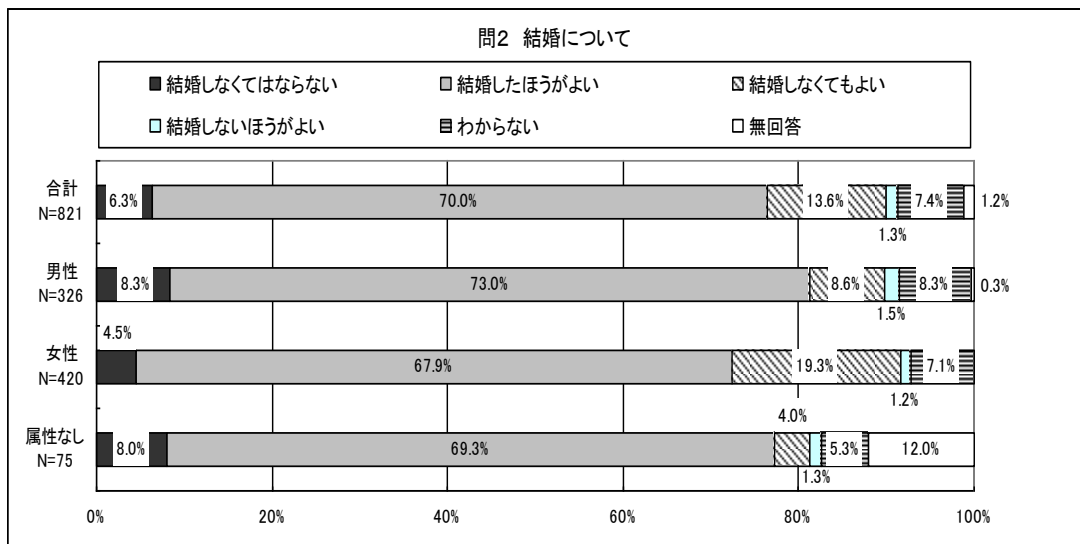
●結婚観について

- ・女性の5人に1人、男性の10人に1人が「結婚しなくてもよい」「結婚しないほうがよい」と考えており、そう回答した女性の割合は男性の2倍となっている。
- ・前回調査では「結婚しなくてはならない」、「結婚したほうがよい」は合わせて76.3%だったが、今回調査では70.5%と割合が減っている。特に男性の「結婚しなくてはならない」と回答した割合が半減している。

平成28年度調査



平成23年度調査



分析：結婚・家庭生活に対する期待が低くなっています。これは、「結婚しなくてもよい」という意味だけでなく、「結婚したくてもできない」状況があると読み取ることもできます。結婚するのが当たり前という「皆婚社会」ではなくなっているのかもしれませんが。

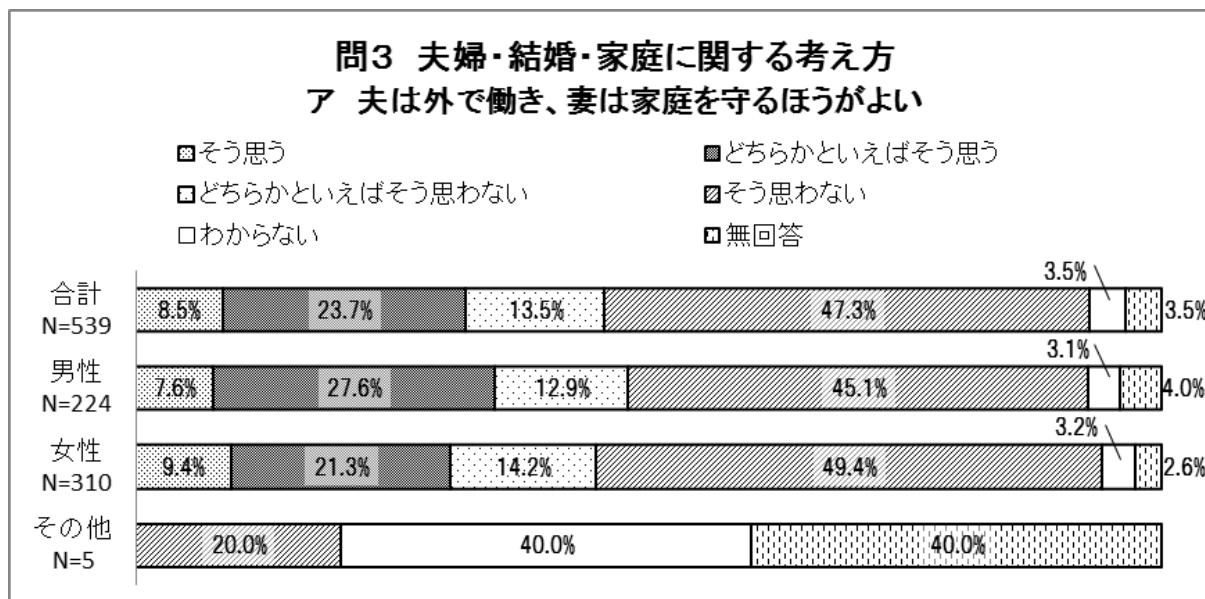
●夫婦・結婚・家庭について

ア「夫は外で働き、妻は家庭を守るほうがよい」という考え方について

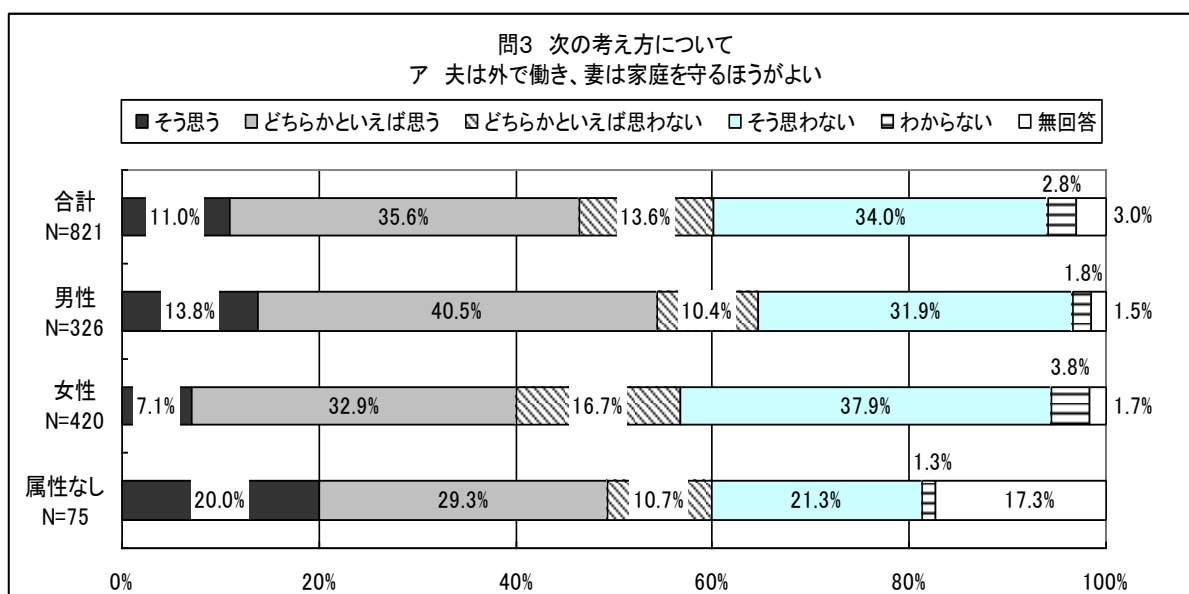
・前回調査は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が46.6%、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」が47.6%となり、ほぼ同数となったが、今回は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が32.2%、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」が60.8%となり、性別役割分担という考え方については変化がみられている。女性の社会進出への抵抗感が弱まっている。

・年代別にみると、男女ともに10～60代は否定派が肯定派を上回り、70代は肯定派が否定派を上回る。

平成28年度調査



平成23年度調査



分析：家庭内における性別役割分業意識については、高齢者のみ世帯や一人親世帯が増加していることを考えてみると、家庭生活における性別役割分業じたいが成り立たなくなっているとみることもできます。

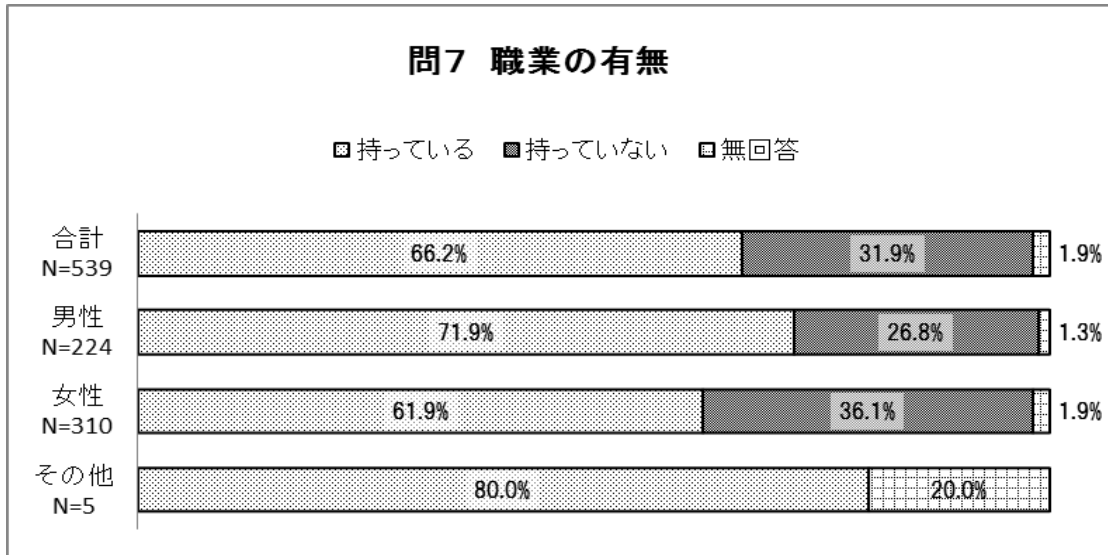
【仕事について】

●職業の有無

・女性の年代別の就業率は10代40.0%、20代83.3%、30代83.3%、40代82.6%、50代83.3%、60代51.9%70代6.5%となっている

※女性のM字カーブは武雄市内においてはみられなかった。

平成28年度調査



女性の職業の有無

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
持っている	40.0%	83.3%	83.3%	82.6%	83.3%	51.9%	6.5%
持っていない	60.0%	16.7%	16.7%	13.0%	16.7%	48.1%	84.8%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	8.7%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

分析：女性が就労しやすいという側面と、女性も働かざるをえない状況があるという両面があるのではないのでしょうか。「共働き」世帯の増加は、働きやすくなったのか、生活の困窮が進んできたのか、その両面からの検討が必要です。

● 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の活動」の優先度について（理想）

● 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の活動」の優先度について（現状）

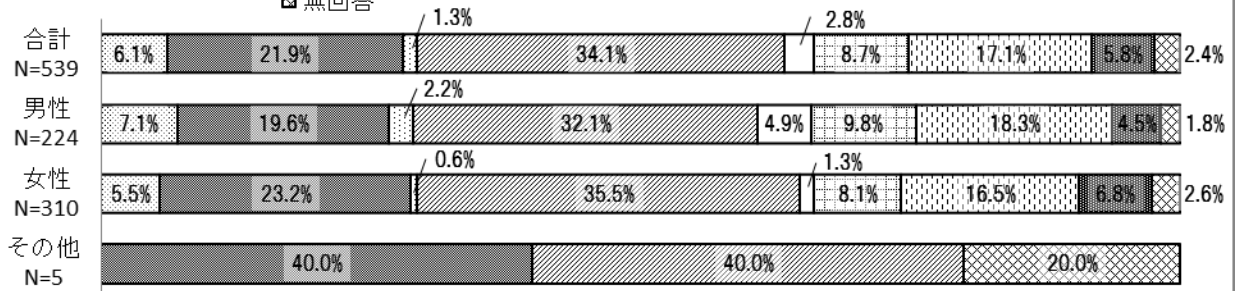
・理想は、男女ともに『仕事と家庭生活』を共に優先したい」が、ほぼどの世代においても高率を占めている

・現実には男性の40代・50代は「仕事を優先している」が最も多く、女性の50代・60代・70代は「家庭生活を優先している」が最も多い。理想と現実には差があることが分かる。

平成28年度調査

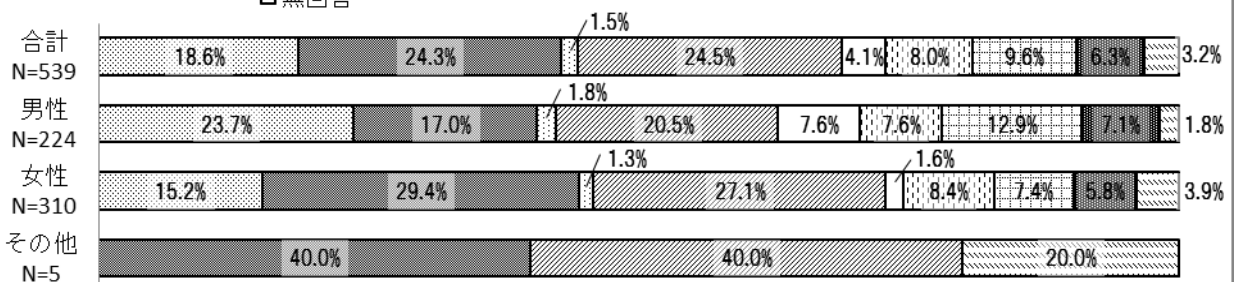
問11 「仕事」、「家庭生活」、「地域や個人の活動」の優先度（理想）

- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域や個人の活動」を優先したい
- ▣ 「仕事」と「家庭生活」とともに優先したい
- 「仕事」と「地域や個人の活動」とともに優先したい
- ▣ 「家庭生活」と「地域や個人の活動」とともに優先したい
- ▣ 「仕事」と「家庭生活」と「地域や個人の活動」とともに優先したい
- わからない
- 無回答



問12 「仕事」、「家庭生活」、「地域や個人の活動」の優先度（現状）

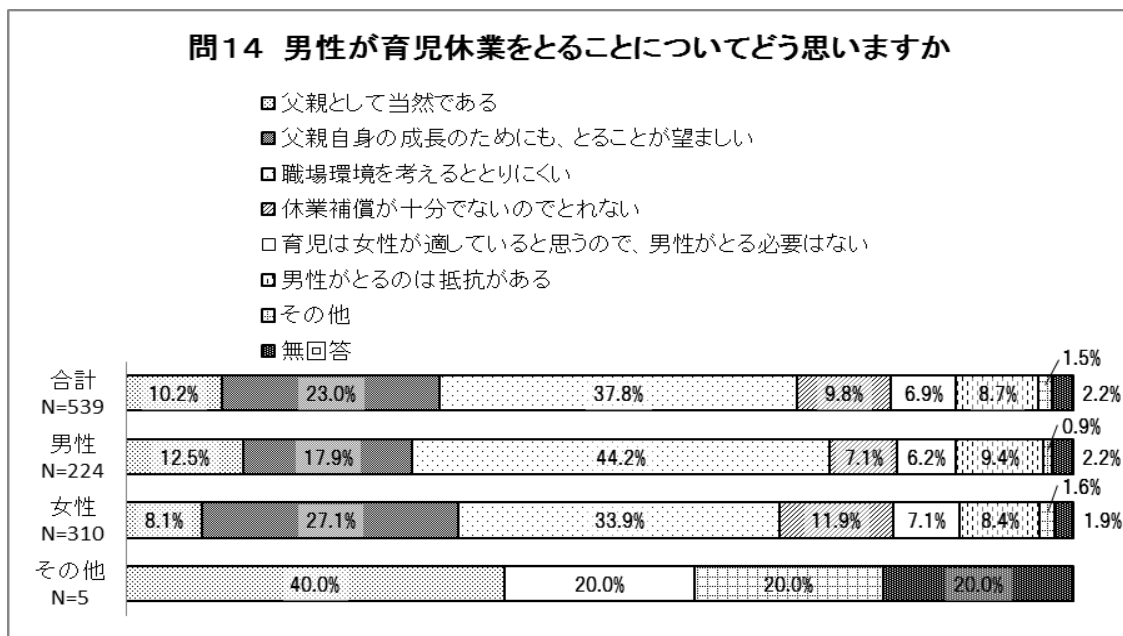
- ▣ 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域や個人の活動」を優先している
- ▣ 「仕事」と「家庭生活」とともに優先している
- 「仕事」と「地域や個人の活動」とともに優先している
- ▣ 「家庭生活」と「地域や個人の活動」とともに優先している
- ▣ 「仕事」と「家庭生活」と「地域や個人の活動」とともに優先している
- わからない
- 無回答



●男性が育児休業をとることについて

- ・「職場環境を考えるととりにくい」37.8%が最も高く、男女ともに割合が増えている。
- ・次いで「父親自身の成長のためにも、とることが望ましい」23.0%となった。
- ・男性の育児休業取得に否定的な意見「育児は女性が適していると思うので、男性がとる必要はない」6.9%、「男性がとるのは抵抗がある」8.7%となっている。

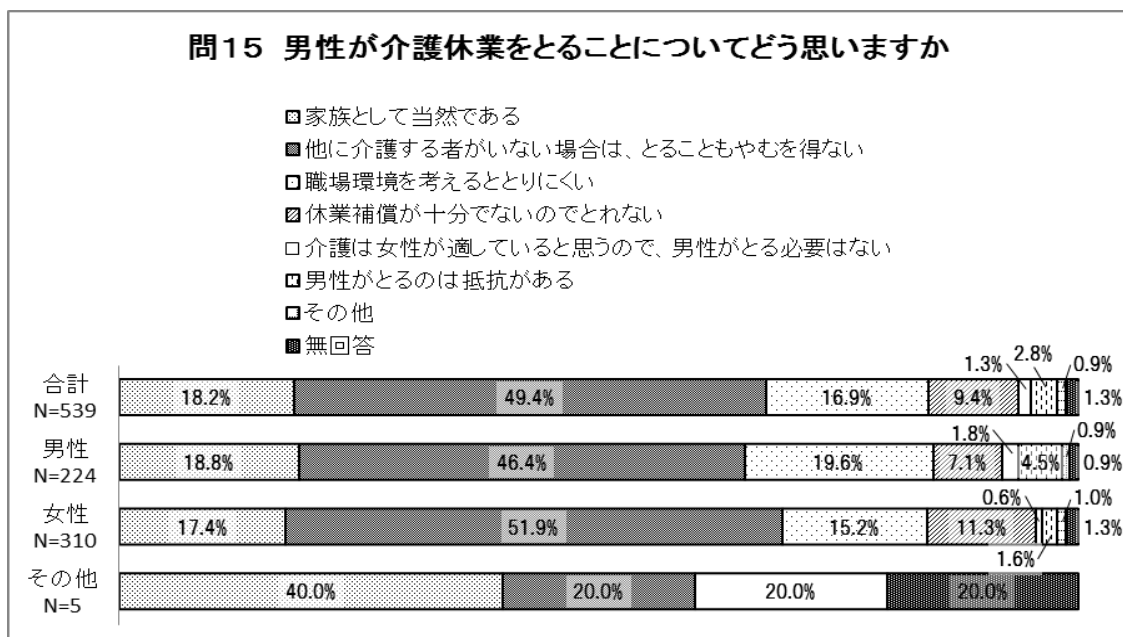
平成 28 年度調査



●男性が介護休業をとることについて

- ・「他に介護する者がいない場合は、とることもやむを得ない」49.4%と2人に1人と高率となった。次いで「家族として当然である」18.2%、「職場環境を考えるととりにくい」16.9%となった。
- ・男女で大きい差は見られない。

平成 28 年度調査



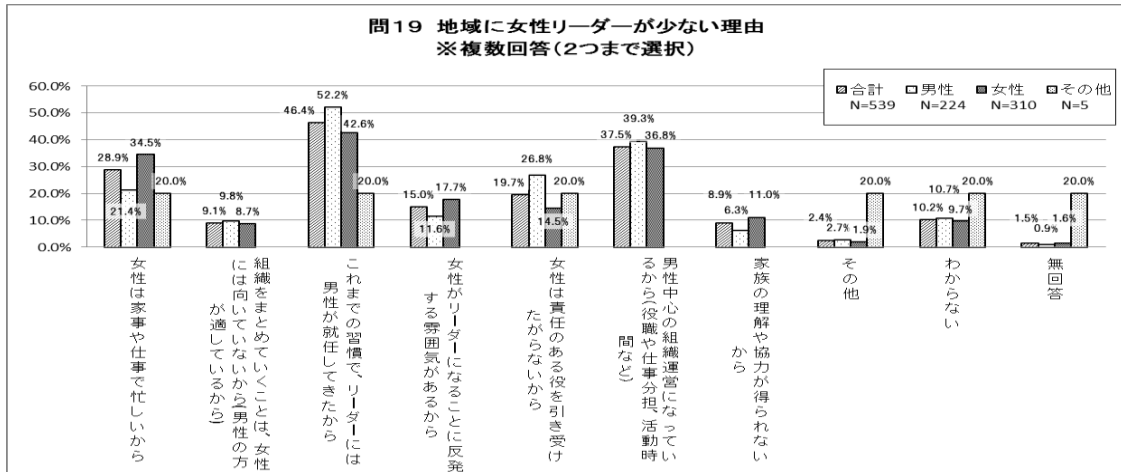
【地域活動について】

●地域に女性リーダーが少ない理由

・「これまでの習慣で、リーダーには男性が就任してきたから」46.4%、「男性中心の組織運営になっているから」37.5%、「女性は家事や仕事で忙しいから」28.9%と続いている。

・女性の34.5%が「女性は家事や仕事で忙しいから」と回答しており、男性を13.1ポイント上回り、男性の26.8%が「女性は責任ある役を引き受けたがらないから」と回答しており、女性を12.3ポイント上回っている。

平成 28 年度調査



分析：「これまでの習慣でリーダーには男性が就任してきたから」「男性中心の組織運営になっている」という回答が多く、地域社会における男女共同参画の推進・定着は、今後の大きな課題のひとつです。丁寧な検討が必要でしょう。

【人権について】

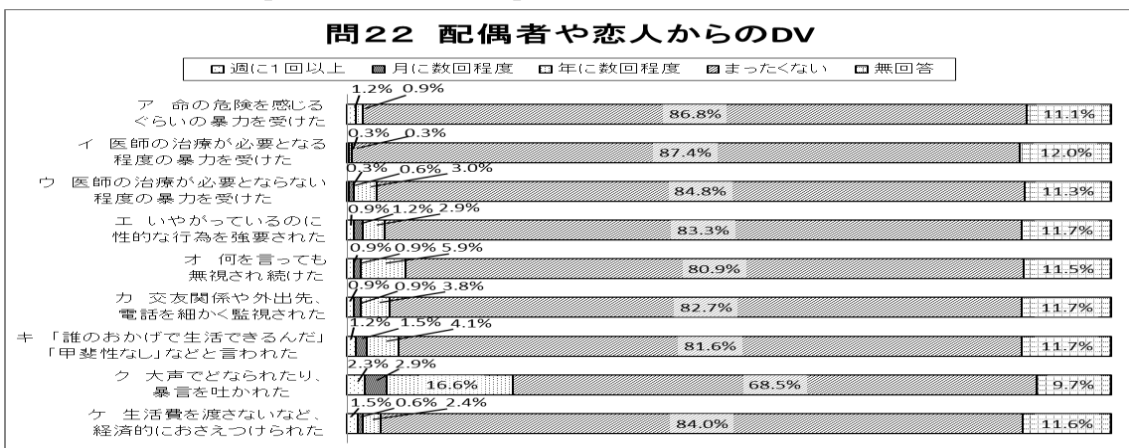
●配偶者や恋人からのDVについて

・配偶者や恋人からの暴力を受けた経験については、身体的暴力、性的暴力、精神的暴力、経済的暴力、全ての項目において「経験がある」という回答がみられた。

・いずれの項目においても、男性より女性の経験者が多く、特に「大声でどなられたり、暴言を吐かれた」はパートナーがいる3割以上の女性が経験者となっている。

・「週に1回以上」4人、「年に数回程度」3人が「命の危険を感じるぐらいの暴力を受けた」と回答しており深刻な事態が浮き彫りになった。

平成 28 年度調査 【各項目とりまとめ】



【男女共同参画社会について】

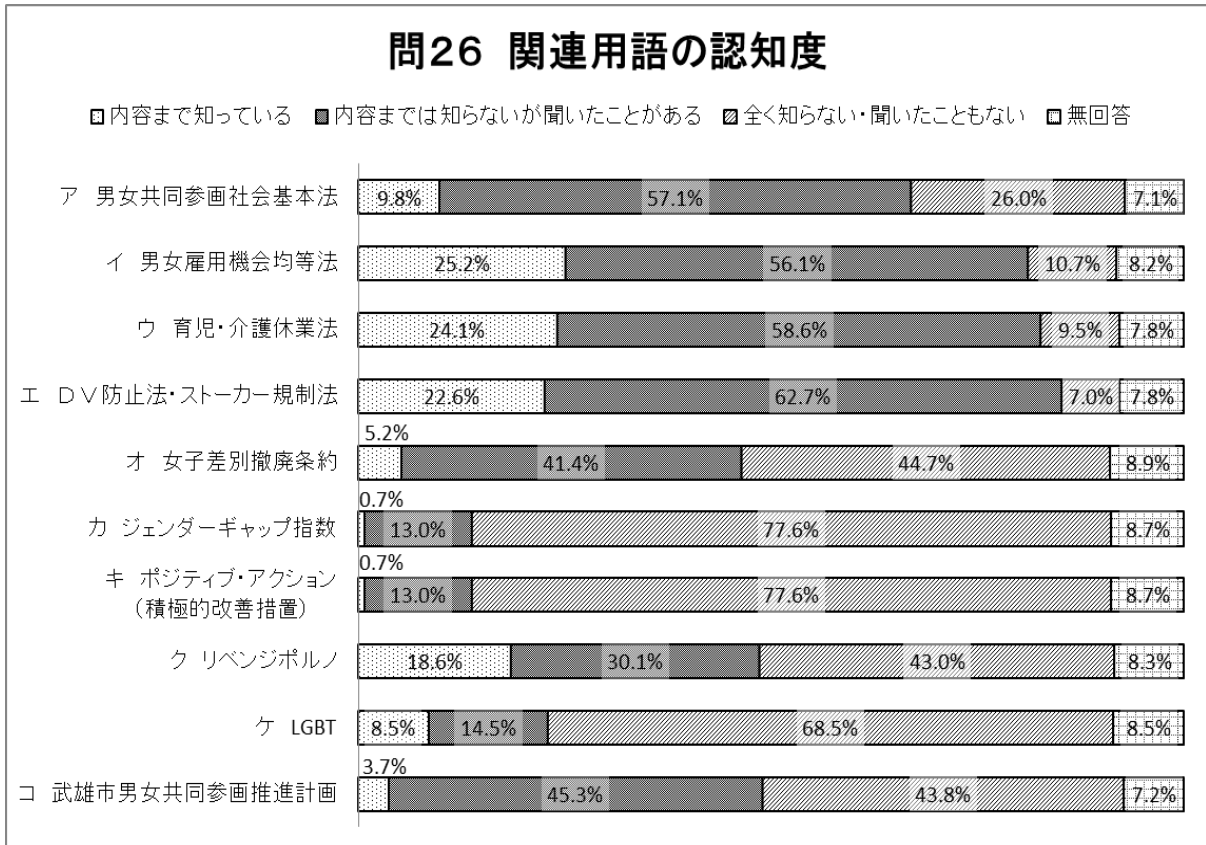
●男女共同参画社会の実現へ向けての関連用語の認知度

・認知度が高いのは、「DV防止法（配偶者からの暴力の防止および被害者の保護に関する法律）」85.3%、「育児・介護休業法」82.7%、「男女雇用機会均等法」81.3%となっている。

・関連用語「ジェンダーギャップ指数」「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」「LGBT」については、4割以下の認知度となっている。

・「武雄市男女共同参画推進計画」については、認知度は49.0%だが、「内容まで知っている」は3.7%に留まっている。

平成 28 年度調査



分析：市民の認知度は十分とはいえず、継続した情報の公開、学習機会の提供、行政サービスへのアクセスの改善、市民活動への支援といった取り組むべき課題も多いようです。男女共同参画推進にむけた行政の市民とのパートナーシップのさらなる進展への期待も大きいようです。

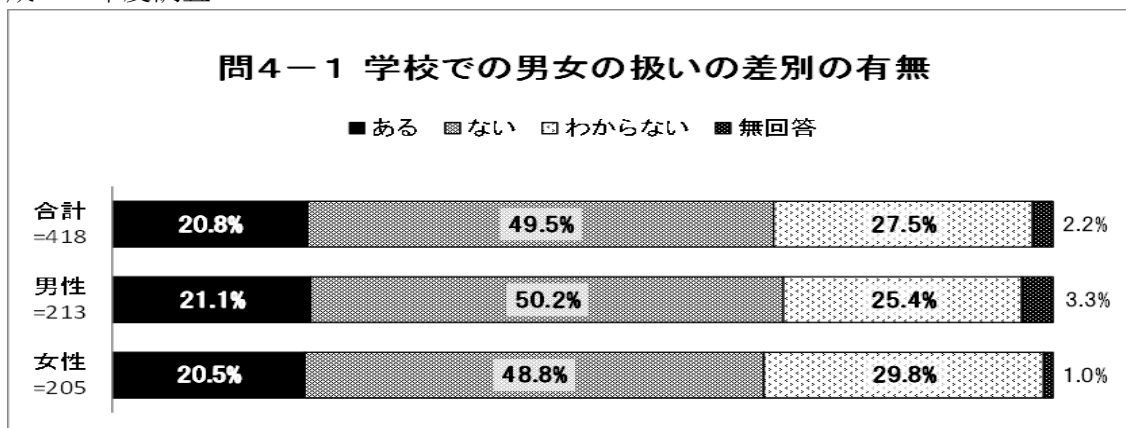
中学生

●学校での男女平等

学校の中で男女間の扱いに差別を感じたことがありますか。

前回調査と比較すると「ある」(20.8%)と回答した割合が7.5ポイント減少している。

平成28年度調査

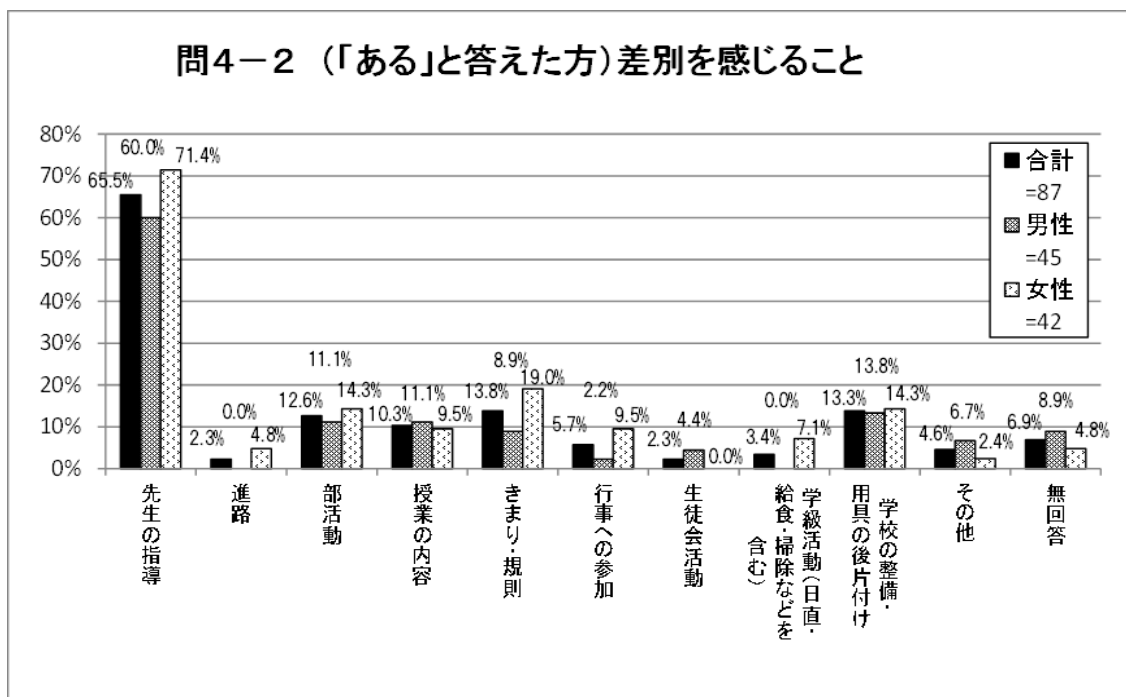


●差別を感じた場

それはどんなことですか。(いくつでも可)

学校の中で男女間の扱いに差別を感じた内容では、「先生の指導」(65.5%)との回答が最も多くなっている。

平成28年度調査

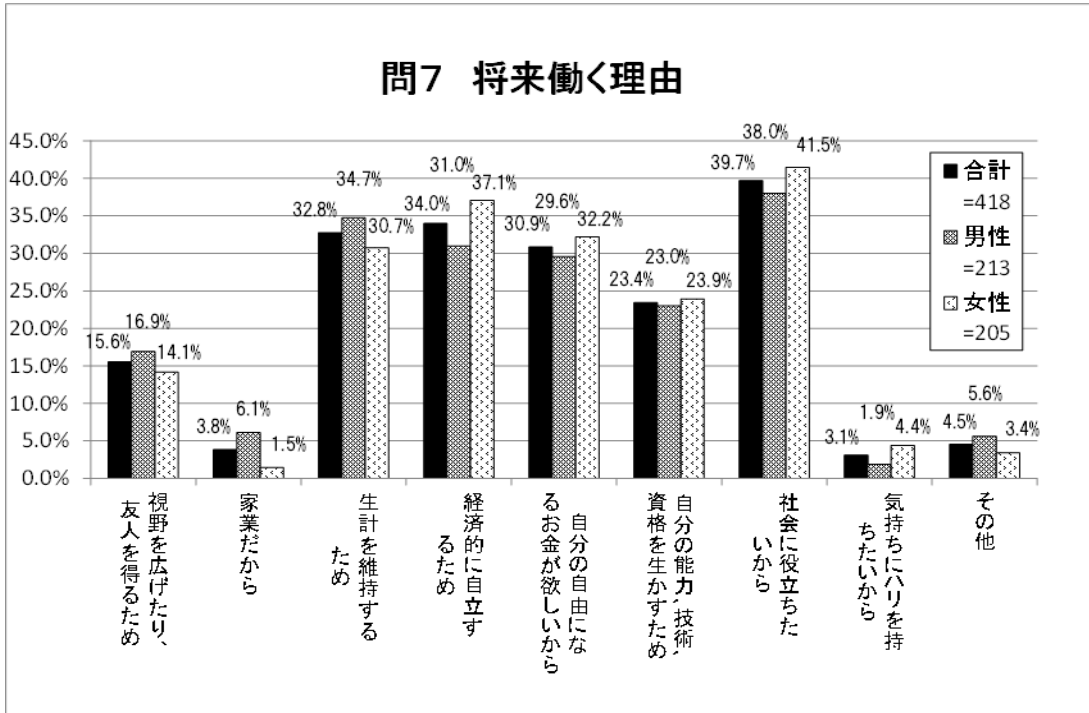


●将来、働く理由

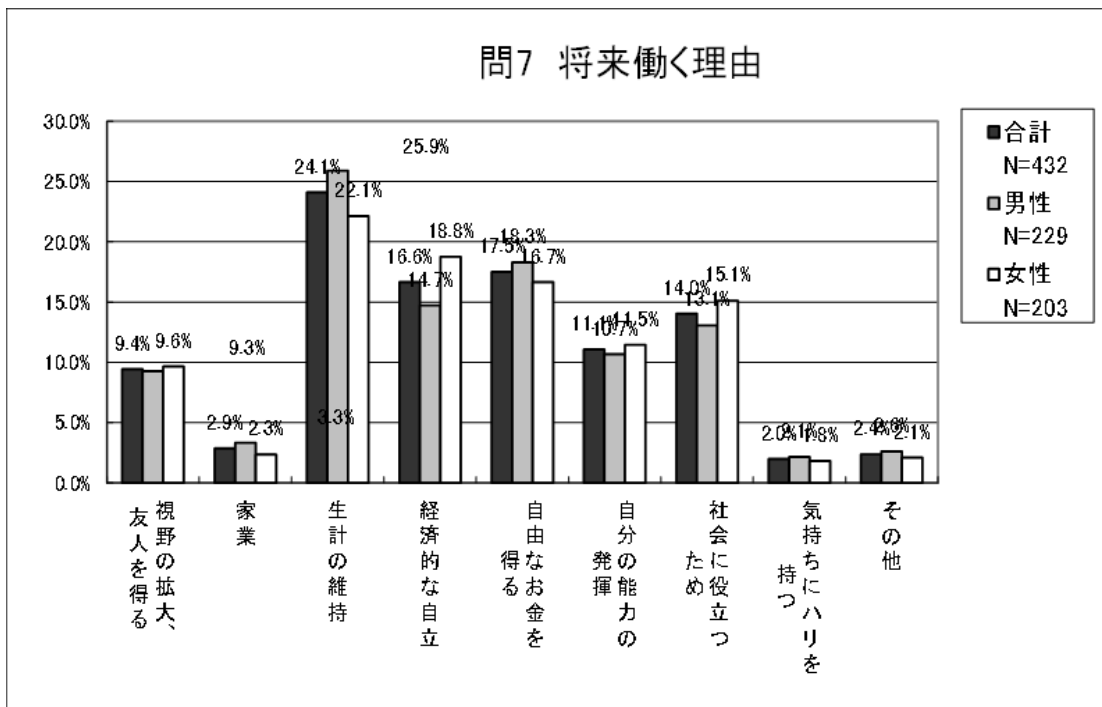
あなたが将来働く理由はどのようなことですか。（2つまで）

前回調査では経済的な理由が上位を占めていたが、「社会の役に立ちたいから」（39.7%）の回答が最も多く、次いで経済的な理由の回答が続いている。

平成28年度調査

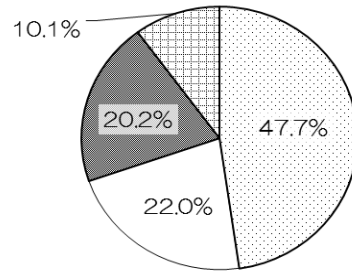


平成23年度調査

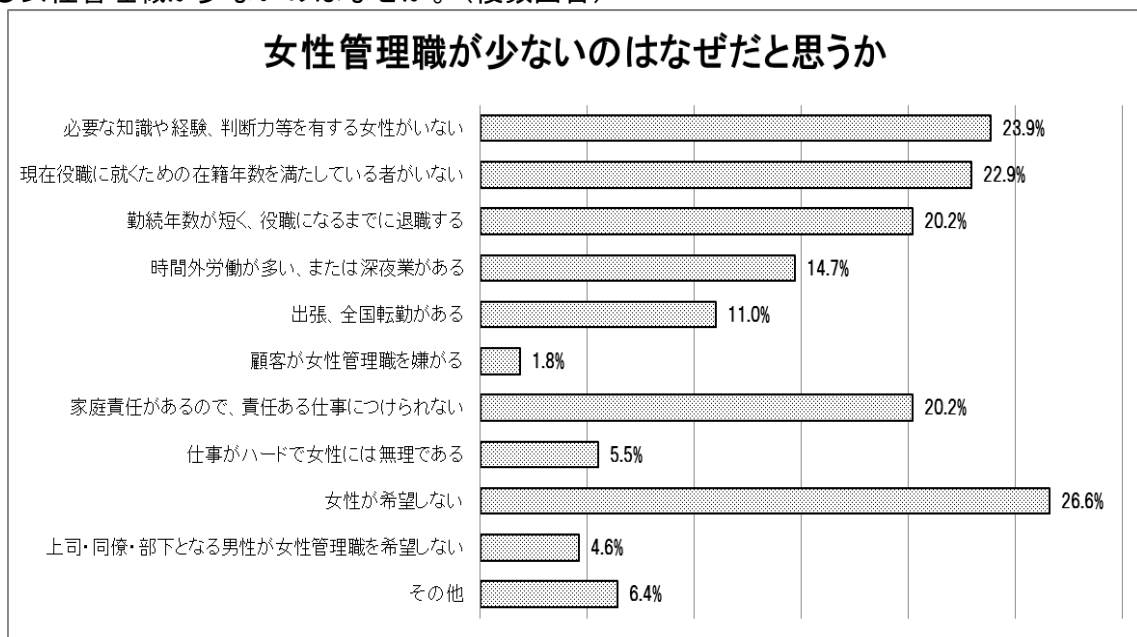


女性の活躍推進について

- 取り組んでいる
- 今後取り組むこととしている
- 今のところ取り組む予定はない
- 未回答



●女性管理職が少ないのはなぜか。(複数回答)



●女性の活躍を推進するために取り組むべきこと (2つまで)

